

みなさまへの感謝と、さらなるご支援のお願い

昨年4月より皆様からお寄せいただきました「ともしび支援募金」は、今年8月末で4800万円に達しました。また「切手でのおくりもの」では約60万円分の切手や葉書をお寄せいただきました。

全国の、うたごえを愛する皆様の熱いご支援により、ともしびはコロナ禍の中でも今日まで元気に活動を続けていくことができました。本当にありがとうございます。

この期間にともしびでは、再開を見据えて、歌声喫茶を新しい時代へ引き継いでいくための様々な取り組みを進めています。「ともしびの理念」の作成、うたごえ司会者の育成、次代を担う若手スタッフの獲得と組織化、新しいレパートリー曲を増やす歌集再編集、YouTubeやライブ配信を使った新しい発信の取り組み、ITを駆使した業務効率化と情報共有の構築、団内向け楽典講座など「学び」の場作り、伴奏楽譜浄書、「切手でのおくりもの」などなど、これからの発展のための課題に向き合いながら、様々なプロジェクトを立ち上げています。

8月14日には、ともしび音楽講座生と、ともしび若者サークルぱれっとのメンバーによる「夏の音楽会」を開催し、コロナ禍の中でも、ともしびメンバーが元気に音楽創造活動を展開している姿を見ていただきました。ご参加された皆様へ厚く御礼申し上げます。「ともに生きあう」ともしびの文化創造のあり方を体現した取り組みとして、大きな成果を得ることができました。

皆様からのご支援やご期待にお応えするためにも、コロナ禍を乗り越えて、新しいお店をもつことを目指していきたいと思っています。

しかしながらコロナウイルス感染拡大が長期化し、今もって蔓延拡大している現状では、お店の再開も今は厳しいと言わざるを得ません。

また、劇団や音楽企画の公演、さらに毎年200公演を超えていた、呼んでいただく出前歌声喫茶公演も数カ所を除き、キャンセルになる状態が現在も続いています。大きな事業収入を見込んでいる劇団ともしびの秋の文化庁助成公演も、コロナウイルス感染が地方に広がっている中でキャンセルが出始めています。

このような中でも、ともしびのうたごえを皆様にお届けするために、ともしび主催の出前歌声喫茶公演を首都圏各地でおこなっています。おかげさまでご参加された皆様には大変喜んでいただいています。それでも感染予防のために、参加定員を2分の1から3分の1以下に減らさざるを得なく、その定員にも満たない公演も少なくありません。

国や都の助成金・補助金も申請できるものは全ておこなっていますが、獲得できた額は昨年度の事業減収分の2割程度で、とても減少分を取り戻せるような額ではありません。コロナ禍で苦しんでいる個人事業者や中小企業者等に対して、ほんとうに冷酷な政治だと怒りを覚えずにはられません。

昨年2月から現在までのコロナ禍による事業売上げでの損害額は、1億2000万を超える額となってしまいました。皆様からの支援募金を無駄にしないよう、できる限りの経費の節減をおこなっていますが、それでも毎月350~400万円の赤字が出ている状態です。このような状態が来春まで続くと、ともしびの存続自体が危ぶまれる事態となります。

コロナ禍が収束して安心して歌い交わせるまで、そして様々な公演がおこなえるようになるまで、持ちこたえていけるかどうかの瀬戸際となっています。

どうか、ともしびの存続のため、そして歌声喫茶文化の灯を絶やさないために、皆様からのさらなる支援募金のお力添えを賜りますよう、どうかよろしく願い申し上げます。

2021年9月15日

株式会社ともしび 代表取締役 齊藤 隆